

● 配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

高等教育活性化シリーズ 261 (通算 588 回)

2014 年 3 月 24 日 (月)

教育・学術情報インフラの新パラダイム ―

電子教材・論文・書籍の開発・流通・活用の深化

高等教育活性化シリーズ 262 (通算 589 回)

2014 年 3 月 26 日 (水)

新・高等教育の“不易”と“流行” ―

MOOCのインパクト―JMOOCの展開

教育・学術情報インフラの新パラダイム ―

電子教材・論文・書籍の開発・流通・活用の深化

～ 大学出版部・機関リポジトリ・図書館等の明日を拓く ～

- ※ 電子書籍・ジャーナルの市場の動向と今後／電子図書館／デジタルビジネスとエコシステム
- ※ プロセスとしての教育、活動としての出版のハイブリッド／「コミュニティ・ハブ」としての新・大学
- ※ 電子書籍プラットフォーム“Kinoppy”／マルチデバイス対応による学修・教育支援／共同研究
- ※ 電子教科書の本格導入による学修の進化／自主学習と新たな授業／“書を持って、街に出よう”
- ※ e ラーニング「千と千尋の経済学」の教材と授業／教員個人がコントロールする電子出版とその市場

● 講師陣 ●

植村 八潮 氏 / 専修大学 文学部 人文ジャーナリズム学科 教授
(株) 出版デジタル機構 会長 日本出版学会 副会長
長谷川 一 氏 / 明治学院大学 文学部 芸術学科 教授
香川 博 氏 / (株) 紀伊國屋書店 首都圏西営業部 部長
新田 英直 氏 / (株) 紀伊國屋書店 電子書籍事業部 部長
菊池 重雄 氏 / 玉川大学 教学部長 経営学部 教授
中嶋 航一 氏 / 帝塚山大学 経済学部 教授

2014 年 3 月 24 日 (月) 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)

新・高等教育の“不易”と“流行” ―

MOOCのインパクト―JMOOCの展開

～ グローバル競争の中で／大学が検討すべきこと／日本でのニーズと可能性／日本版 4 月スタート ～

- ※ 世界の新潮流～MOOC とその実際／受講者と参加大学／最前線の試みと課題／米国での法制・実質化／反転授業・ブレンド型学習とその難しさ／コンピテンシー・ベースド教育の動き／アンバンドリング
- ※ OCW と OER の内外動向／JMOOC 設立の狙いと運営体制／産学連携による継続学習基盤の形成／潜在ニーズ世論調査にみる期待／ニーズ分析から見える可能性と課題／2 月 3 日受講生募集へ

● 講師陣 ●

船守 美穂 氏 / 東京大学 教育企画室 特任准教授
福原 美三 氏 / (般社) 日本オープンオンライン教育推進協議会 事務局長
明治大学 特任教授

2014 年 3 月 26 日 (水) 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)



[参加要領]

日時：■高等教育活性化シリーズ 261 電子教材・論文・書籍の開発・流通・活用の深化
2014年3月24日(月) 9:40~16:40

■高等教育活性化シリーズ 262 MOOCのインパクト—JMOOCの展開
2014年3月26日(水) 13:00~16:40

会場：剛堂会館(明治薬科大学)会議室(東京・麹町)※両日程、同会場

千代田区紀尾井町3-27 TEL 03-3234-7362

(東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口より徒歩4分、またはJR中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口より徒歩10分)

参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び音声CD送付)
高等教育活性化シリーズ 261 電子教材・論文・書籍の開発・流通・活用の深化	41,000円 (消費税込)	42,000円(消費税、送料込)
高等教育活性化シリーズ 262 MOOCのインパクト—JMOOCの展開	36,000円 (消費税込)	37,000円(消費税、送料込)

※メディア参加とは、開催当日に会場に来られない方の参加形式です。

※開催後に当日配布資料及び音声CDをご送付します。

※なお、当日参加とともに、音声CDをご希望の方には、特別割引いたします。

※参加費の払い戻しは致しません。申込者のご都合が悪いときには、代理の方がご出席ください。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ、FAXまたはEmailにてご送付ください。

※受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 *郵便振替：00110-8-81660

口座名 (株)地域科学研究会

(ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒<http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/> E-mail: kkj@chiikikagaku-k.co.jp

☆同人組織としての「高等教育計画経営研究所」を創設、KKJのURLにてご覧ください。

お申込み・お問合せ



地域科学研究会
高等教育情報センター

東京都千代田区一番町6-4 ライオンズ第2-106
TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2014年 月 日

- 高等教育活性化シリーズ 261
電子教材・論文・書籍の開発・流通・活用の深化
- 高等教育活性化シリーズ 262
MOOCのインパクト—JMOOCの展開

(□に✓印を入れてください)

当日参加 メディア参加

当日参加 メディア参加

支払方法 当日払い 銀行振込 郵便振替

必要書類 請求書 見積書

勤務先

〒

連絡部課・担当者名

所在地

メールアドレス

TEL

FAX

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
9:40 ～ 11:10	<p>□ 電子書籍・ジャーナルの開発・流通・活用のトレンドと今後 ～ 学術情報、デジタル教材のエコシステムを考える ～ 専修大学 植村 八潮</p> <p>1. 電子書籍の動向と今後 (1) 電子書籍市場の動向 (2) 専門書の電子化状況 (3) 民間による電子図書館サービスの開始</p> <p>2. 高等教育におけるデジタル教材の利用 (1) デジタル教科書の話 (2) 教材のOCWからMOOCsへの流れ</p> <p>3. 学術情報の電子化 (1) 電子ジャーナルと機関リポジトリの果たした役割 (2) デジタルアーカイブと電子図書館 (3) DH(デジタル人文学)への取組</p> <p>4. オープン化とデジタルビジネス (1) 学術情報、デジタル教材のエコシステム (質疑応答)</p>
11:20 ～ 12:40	<p>□ 「コミュニティ・ハブ」としての大学の21世紀の可能性 ～ プロセスとしての教育、活動としての出版 ～ 明治学院大学 長谷川 一</p> <p>1. 21世紀における大学と出版の現在 (1) 廃墟になった大学 (2) 溶解した出版 (3) 「未来」はどのように構想可能か?</p> <p>2. 「プロセス」と「活動」から捉えなおす (1) 「モノ」から「プロセス」「活動」への視座の転換 (2) 「プロセス」としての教育 (3) 「活動」としての出版 (4) 「プロセス」と「活動」のハイブリッドとしての大学</p> <p>3. 「大規模有力大学」以外の大学が秘める可能性について (1) どのセクターにも属さない者としての大学 (2) 地域社会に存在する多様な、けれど断片化された諸セクター (3) プロセスの共有としての活動 (4) 大学だけがもちうる固有の価値を再編成する (質疑応答)</p>
13:40 ～ 14:20	<p>□ 電子書籍プラットフォーム“Kinopy”の活用方策 ～ マルチデバイス対応による学修・教育環境の進化(電子教科書の可能性)～ 紀伊國屋書店 香川 博 新田 英直</p> <p>1. 学修環境への対応 (1) マルチデバイス対応による学修環境の確保 (2) クラウド本棚サービスによる学修環境の保証</p> <p>2. 学修材料の増加 (1) 教科書と課題図書の実質 (2) 専門書の増加</p> <p>3. 課題点 (1) 著作権 (2) フォーマット(検索できない汎用コンテンツの増加) (3) 学生の決済手段</p> <p>4. 事例報告 (1) 電子教科書の販売 (2) 今後の展望 (質疑応答)</p>
14:30 ～ 15:30	<p>□ 電子教科書の本格導入による学修の進化 ～ “Kinopy”を活用した新しい授業スタイルと自学自習の促進～ 玉川大学 菊池 重雄</p> <p>1. 変化する大学教育(学士課程教育) (1) 学士課程教育で育成するコンピテンシー (2) グローバリゼーションと大学の対応 (3) 学生の「主体的学び」を求める時代と社会</p> <p>2. 主体的学修を促進する玉川大学の教学マネジメントシステム (1) 学修時間の確保 (2) 学生の主体的な学びを支援する仕組みづくり</p> <p>3. 主体的学修における電子教科書の有用性と可能性 (1) 電子教科書(Kinopy)を活用した新しい授業のかたち (2) 学生の自学自習と電子教科書</p> <p>4. 「学生よ、書を持って。街へ出よう」 (1) 学修空間の拡大 (2) 大学生としての学修から生涯学習へ (質疑応答)</p>
15:40 ～ 16:40	<p>□ 千と千尋の経済学 ～ スティープ・ジョブズ的な「電子出版」の謎解き～ 帝塚山大学 中嶋 航一</p> <p>1. Innovationの定義 (1) Innovation=Super Big Invention+Management (2) Management=お金に換える能力</p> <p>2. 電子出版の革新性～デジタル教材とYouTubeの併用 (1) 個人がすべてコントロール:『千と千尋の経済学:資本主義の「化け物語」』の事例 (2) 教育(=情報に付加価値をつける作業)爆発</p> <p>3. 大学教員による新市場 (1) 日本の教員数18万人:1,000人×@500円×200ダウンロード=1億円 (2) 出版社の新ビジネスモデル:共食い(cannibalization)を恐れない (質疑応答)</p>

時間	講 義 項 目
13:00 } 15:00	<p>□ MOOC とその周辺：変容を促されるキャンパス教育 ～ 日本の大学が検討すべきことは何か？ ～</p> <p style="text-align: right;">東京大学 船守 美穂</p> <p>1. MOOC 出現の背景 (1) ネット社会とインフラの発展 (2) cMOOC vs. xMOOC (3) 学び方の変容</p> <p>2. MOOC の実際 (1) MOOC の概要 (2) MOOC の中をのぞいて見よう！ (3) MOOC の実態：受講者と参加大学 (4) MOOC の課題と最前線における試み</p> <p>3. 反転授業とブレンド型学習 (1) 反転授業、ブレンド型学習とは (2) 反転授業、ブレンド型学習の具体 (3) オンライン・コンテンツを手軽に作る方法 (4) 反転授業、ブレンド型学習の難しさ</p> <p>4. MOOC のインパクト (1) 米国における法制化、実質化の動き (2) コンピテンシー・ベースド教育の動き (3) 高等教育におけるオンライン教育拡大の動き (4) 高等教育のアンバンドリングはどこまで進むか？ (5) 日本の大学へのメッセージ</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
15:10 } 16:40	<p>□ 日本発 MOOC (JMOOC) の現状と展望 ～ 産学連携による継続学習基盤の形成 ～</p> <p style="text-align: right;">日本オープンオンライン教育推進協議会 福原 美三</p> <p>1. MOOC 出現の背景と経緯 (1) オープンエデュケーションの源流 (2) OCW と OER の内外動向 (3) MOOC の出現 (4) 海外 MOOC の動向</p> <p>2. JMOOC 設立の狙いと体制 (1) JMOOC 設立の背景 (2) JMOOC の狙い (3) 運営体制 (4) 今後の計画</p> <p>3. 日本発 MOOC への期待と課題 (1) 潜在ニーズ世論調査 (2) ニーズ分析から見える可能性と課題</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>

○ホット・ミニニュース○

日本版 MOOC サイト「gacco™」スタート

2014. 2. 3

～15 大学の 15 講座で発足／受講生募集の開始～

JMOOC 公認の日本発 MOOC が 4 月 14 日より順次開講される

- ・参加大学 ⇒ 東大／慶應大／早大／北大／文化学園／国際教養大／立命館大／明大／グロービス経営大学院／大手前大／関西大／大阪大／広島大／京都大／九州大
- ・仕組み ⇒ 10 分程度の講義動画を 1 週間に 10 本前後視聴。他の受講生と掲示板を通じたディスカッション。選択式テストやレポートなどの課題。最終テストなどで修了条件を満たすと「修了証」を発行
- ・特色 ⇒ 一部の講座で対面で発展的な講義を行う「反転学習コース」を有料で提供
(株) NTT ドコモ NTT ナレッジ・スクウェア (株)
(一般社) 日本オープンオンライン教育推進協議会